

次期総合交通戦略の策定に向けた 検討について

目次

- 1 今年度のスケジュールについて
- 2 次期総合交通戦略の概要

1 今年度のスケジュールについて

1 今年度のスケジュールについて

- 令和7年度は、松本市パーソントリップ調査等の現状把握のための各種調査を実施した。
- 令和8年度（今年度）は、これらの結果を踏まえ、**次期総合交通戦略を策定**する。
 - ⇒年末に**パブリックコメント（パブコメ）**を実施、3月に策定。
 - ⇒検討の段階ごとに交通政策検討委員会を開催、案を協議。

■令和8年度のスケジュール（現時点の想定）

	令和8年度												令和9年度
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
次期総合交通戦略策定	将来の暮らしと交通の役割												
	市の現状と課題①				市の現状と課題②								
	現戦略の検証				戦略・施策								
					推進体制と進捗管理								
							次期戦略（案）	修正			修正	印刷製本	
交通政策検討委員会					(本日)			(パブコメ案)				(策定)	
パブリックコメント									パブコメ				

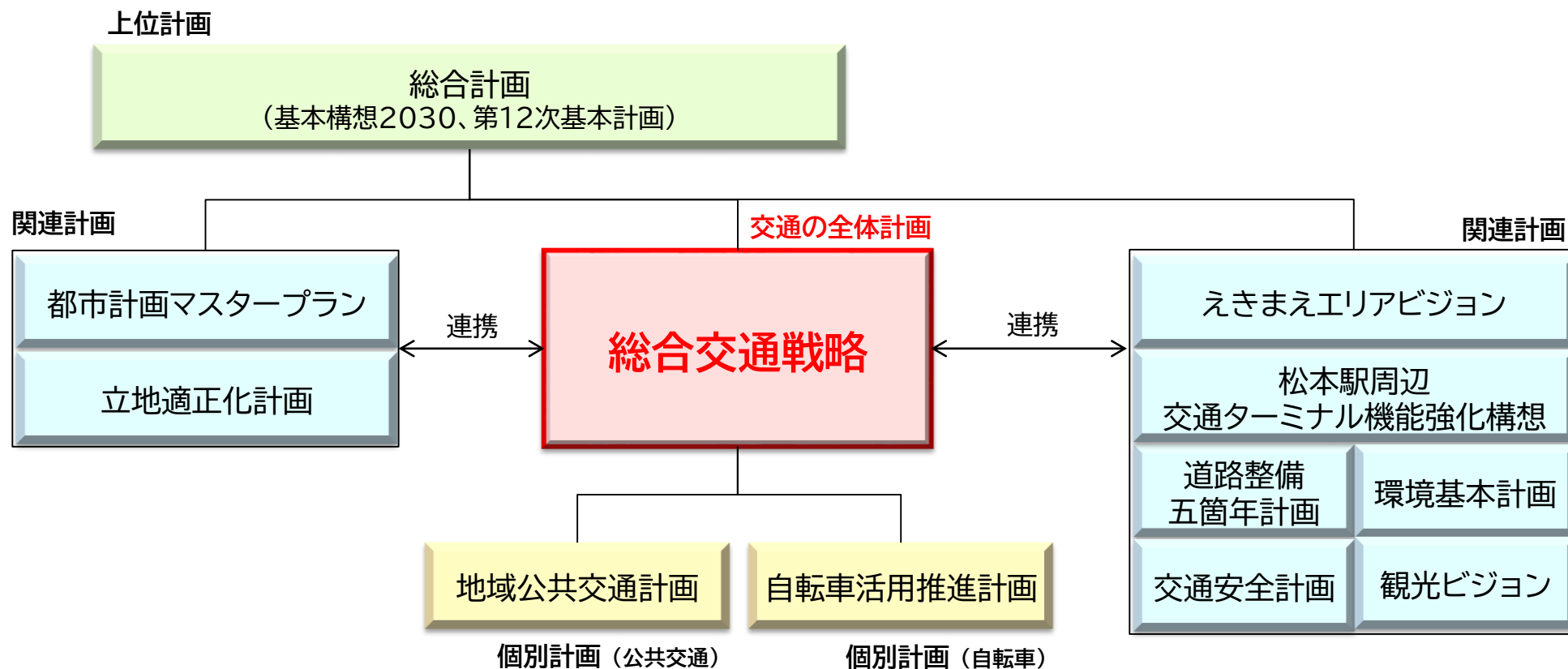
2 次期総合交通戦略の概要

(1)計画の概要

◇総合交通戦略とは

- 松本市における交通に関する全体計画として、上位・関連計画との整合・連携を図りながら交通に関する各種施策を総合的かつ戦略的に実施していくための計画。

◇総合交通戦略の位置づけ（上位・関連計画との関係）



(2)目次構成

◇バックキャスト型（目標指向型・逆算型）のアプローチ

- 上位・関連計画で描かれている市が目指す将来像(都市像、暮らしの姿)に対して、交通の役割と施策を考える

第1 計画の概要

- ・ 計画の背景・目的
- ・ 計画の位置付け（上位関連計画との関係）
- ・ 計画期間、対象区域
- ・ 計画のコンセプトと基本的な考え方

次頁

第2 目指す将来像と交通の役割

- ・ 目指す将来像と暮らしの姿
- ・ 目指す将来像を支える交通の役割

資料3

第3 目指す将来像に対する交通の課題

- ・ 取り巻く環境の変化と今後の見通し
- ・ 市民の移動実態（PT調査、学生ワークショップ等）
- ・ 現戦略の取組み状況
- ・ 目指す将来像に対する交通の課題

資料4

第4 将来像の実現に向けた戦略・施策

- ・ 戦略・施策の全体像
- ・ 施策と主な事業
- ・ ロードマップ

資料5

第5 推進体制と進捗管理

- ・ 成果指標（K P I）
- ・ 推進体制（体制+評価・見直し）

(3)コンセプトと基本的な考え方

コンセプト

「選ばれるまち・松本」を交通から支える

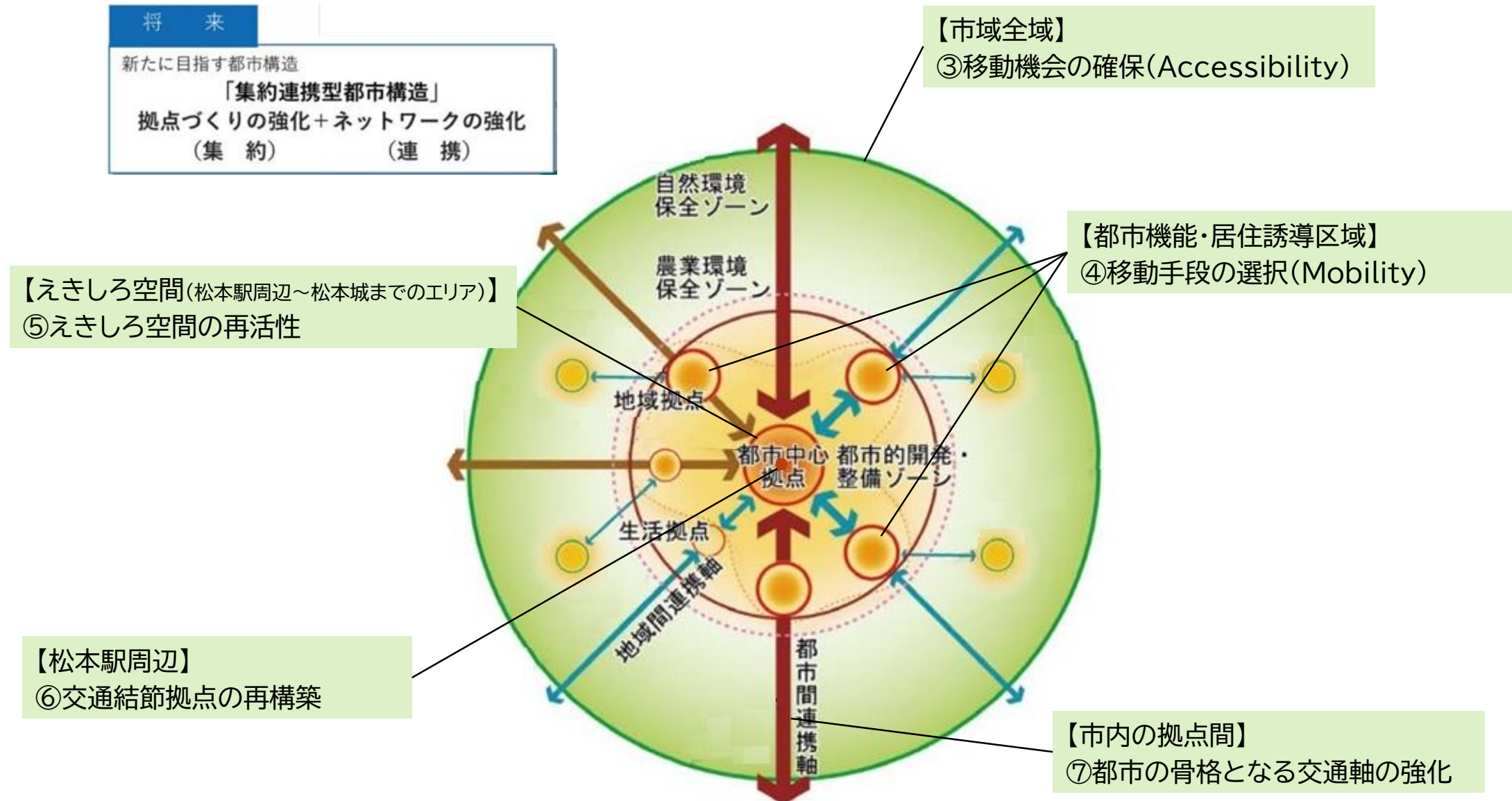
内容：松本市の豊かな自然・歴史・文化、都市機能、「三ガク都（岳・楽・学）」としての魅力を磨き、次の世代へつなぐとともに、若い世代から高齢者まで、来訪者から移住希望者まで、将来にわたって住む人にも訪れる人にも魅力的なまち（＝選ばれるまち）を、まちづくりと一体となった都市の基盤として、交通の面から支える。

■基本的な考え方（9つのポイント）

分類	ポイント	内容
考え方	①バックキャスト型アプローチ	総合計画から整理した「目指す将来像と暮らしの姿」の実現に向けて、交通の役割や戦略・施策を考える。
	②まちづくりとの一体的な推進	目指す将来像の実現を支える 都市基盤として交通を位置づける 。総合計画の重視する視点の1つである「暮らしの質を高める都市機能の強化」および重点戦略「ゼロカーボン」「DX・デジタル化」を、交通分野で具体化する。
交通環境	③移動機会の確保(Accessibility) (エリア：市域全域)	年齢や自動車の有無にかかわらず、学校・病院・商業施設など 生活に必要な場所への移動機会が確保 された交通環境を構築する。
	④移動手段の選択(Mobility) (エリア：都市機能・居住誘導区域)	ライフスタイルやライフステージ、目的地などに応じて、自動車・公共交通・自転車・徒歩など、 多様な移動手段を選択できる 交通環境を構築し、過度な自動車依存からの転換を図る。
空間・拠点・軸	⑤えきしろ空間の再活性 (エリア：えきしろ空間)	松本駅周辺から松本城までの「えきしろ空間」にウォーカブルで居心地の良い公共空間を創出し、 歩くこと自体が価値となる空間 を構築する。
	⑥交通結節拠点の再構築 (エリア：松本駅周辺)	長野県の「極」である松本の玄関口として「日常生活」と「広域からの来訪」の双方を支える 交通結節拠点を再構築 する。
	⑦都市の骨格となる交通軸の強化 (エリア：市内の拠点間)	拠点間を結ぶ 交通軸を道路網と一体的に形成 し、集約連携型都市構造（コンパクトシティ・プラス・ネットワーク）の実現を交通の面から支える。
進め方	⑧多様な主体の連携	市民、行政、交通事業者、企業、学校など 多様な主体が連携 し、それぞれの役割を担いながら目指す交通環境を創出し、提供していく。
	⑨EBPMとPDCAサイクル	交通ビッグデータやデジタル技術を活用した現状分析とKPIによる進行管理を定期的に行い、 エビデンスに基づく継続的な施策の見直しや改善 を行う。

(3)コンセプトと基本的な考え方

◇ポイント③～⑦の関係（概念図）



出典：松本市都市計画マスタープランの図を加工

(4)2～4章までの全体像

